

私たち老健の使命について

今医学生の介護のチーム実習が始まっておりますが、「教えることは学ぶこと」と言って自分達も学べる良いチャンスですので、国が求める私たち「老健の使命」を改めて振り返ってみましょう。

常に申し上げているように「理念」はそれぞれの施設の定める独自の役割ですが「使命」は社会が定める客観的な役割です。

それは、「在宅復帰と在宅支援」、そして「生活リハビリ」、です。これは介護保険法に明記されてそれまでの老健の理念が本年4月1日から法的にも施行され、老健の使命となりました。

—生活リハビリとは—

生活リハビリとは、日常生活全般をリハビリと捉えて心身の衰えた機能の維持改善や残存機能の範囲での自立生活が出来るようになることを目指して、各人に合った自立支援を行うことで、一人一人それぞれ出来ること出来ないことが皆違いますが、それぞれを的確に評価して特に保持している能力に視点を置いたリハビリを言い、ご家族を含めた多職種協働でケアプランを作成して行うのが老健施設の生活リハビリです。

—在宅復帰と在宅支援とは—

介護の必要度は個人個人異なりますので総てが実際に在宅復帰できるかどうかは別にして基本的に入所者は在宅復帰を目指し、在宅生活が出来る方にはその人なりの在宅生活が出来るように支援するというので、その過程のすべてが生活リハと言って良いでしょう。老健に入所していること自体が生活リハしているということでもあります。看取りもその延長線上にあります。従って「基本在宅時々施設」ともいう由縁です。「地域包括ケア」という概念も同じです。

このように社会における老健の位置付けはよりはっきりしてきて老健の新たなステージに入ったと言えます。総てのヒトは生活自立度はゼロから99.9%（100%自立は殆どいない？）と様々で、在宅支援機能とは、その足りない部分あるいは足りなくなった時に個々に合わせてそれなりの自立心を損なうことなく支援を行うことであり、一人一人の尊厳を大切にしながら支援することです。介護者の価値観を被介護者に押し付けることなどもっての外です。

老人保健施設一羊館の理念

利用者の方々すべてに尊厳・安心・満足を！

—一羊館の行動指針

私たちは、保健・医療・福祉の架け橋のプロに徹します。

私たちは、利用者のQOL・職員のQOL・健全経営の3立を目指します。

私たちは、質向上のために日々の小さな工夫を忘れません。



話合いの3原則：

- ①相手の意見は決して否定しないでしっかり聞きます。
- ②自分の意見はしっかり言う。ポジティブ表現で言います。
- ③正解は一つではないことを自覚して自制します。